

種別： 男子 **大会名** 第19回全日本実年ソフトボール大会、大阪予選会 試合番号 13

試合日： 平成22年 7月 25日	第 4 日目	第 1 試合	準決勝	会場・球場：	貝塚市 貝塚市立青少年運動広場				
開始時間	8時46分	終了時間	10時02分	中断時間	：	試合時間	1時間16分		
(球 審)	留奥 陽子	(一塁塁審)	東 良一	(二塁塁審)	坂口 隆一	(三塁塁審)	伊藤 政幸	(副 審)	兼光 俊幸

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	計	安打	失策
茨木実年	0	1	0	0	0	0	0								1	3	4
大阪北都実年クラブ	1	1	1	1	0	1	X								5	9	3

チーム名	投 手	捕 手
茨木実年	中島 純一	巽 仁史・黒岩 丈任
大阪北都実年クラブ	筈谷 豊	服部 政彦

チーム名	(本 塁 打)	(三 塁 打)	(二 塁 打)
茨木実年	/		黒岩 丈任
大阪北都実年クラブ	服部 政彦	/	
		大原 三郎・木南 政文	

(戦 評)

大阪北都実年クラブ 初の決勝戦へ進出！！

大阪北都実年クラブは、1回裏、相手守備の乱れから先制点を挙げ、同点になった2回には四球の走者を犠打で塁を進め内山の二遊間安打でリードし、3回には服部の左中間本塁打で追加点、4回、6回にも加点して勝利した。

先攻の茨木実年は、2回、先頭打者が死球で塁に出て、相手守備の乱れにより1点を取ったが、3回以降、大阪北都実年クラブの筈谷投手に2安打に抑えられ、完投を許した。



公式記録員 下章 伸司
戦評記載者 下章 伸司

試合戦評

種別： 男子 **大会名** 第19回全日本実年ソフトボール大会、大阪予選会 試合番号 14

試合日： 平成22年 7月 25日	第 4 日目	第 2 試合	準決勝	会場・球場：	貝塚市 貝塚市立青少年運動広場				
開始時間	10時15分	終了時間	11時52分	中断時間	：	試合時間	1時間37分		
(球 審)	林 一成	(一塁塁審)	橋本 完二	(二塁塁審)	東 光	(三塁塁審)	水野 直輝	(副 審)	兼光 俊幸

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	計	安打	失策
池田伏尾台	2	0	8	0	4										14	12	2
岸和田クラブ	0	0	4	1	2										7	8	3

チーム名	投 手	捕 手
池田伏尾台	梶田 伸雄・衣斐 孝行	宮本 一郎
岸和田クラブ	平野 進・西宮 敏男	柿花 人志

チーム名	(本 塁 打)	(三 塁 打)	(二 塁 打)
池田伏尾台	太夫 哲治		有米 英夫・中村 照美
岸和田クラブ	北口 登		

(戦 評)

池田伏尾台 猛打爆発、決勝戦進出！！

池田伏尾台は初回、1・2番がバント安打で出塁。犠打と4番太夫の適時打等で2点先制。3回には打者11人を送り、4番太夫の本塁打を含む6本の長短打で8点を挙げ試合を優位に進めた。5回にも中村、衣斐の安打等で打者一巡の4点を挙げ、救援の衣斐が追い上げを断ち今年の3位を上まわる決勝進出を決め飛躍をした。

岸和田クラブは、10点リードされた3回に4安打4点の攻撃で追い上げ、4回1点、5回2点を挙げ、反撃して食い下がったが後一步及ばず敗れた。



公式記録員 山口 栄子
戦評記載者 山口 栄子

大会名 第19回全日本実年ソフトボール大会、大阪予選会

種別： 男子

試合番号 15

試合日： 平成22年 7月 25日	第 4 日目	第 3 試合	決勝	会場・球場：	貝塚市 貝塚市立青少年運動広場				
開始時間	12時19分	終了時間	13時26分	中断時間	：	試合時間	1時間07分		
(球 審)	兼光 俊幸	(一塁塁審)	伊藤 政幸	(二塁塁審)	東 良一	(三塁塁審)	坂口 隆一	(副 審)	橋本 完二

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	計	安打	失策
大阪北都実年クラブ	4	2	6	0	0										12	11	1
池田伏尾台	2	0	0	0	0										2	1	0

チーム名	投 手	捕 手
大阪北都実年クラブ	筈谷 豊	服部 政彦
池田伏尾台	梶田 伸雄・衣斐 孝行	宮本 一郎

チーム名	(本 塁 打)	(三 塁 打)	(二 塁 打)
大阪北都実年クラブ	北澤 政也・山路 隆史		馬場 武志・山之口 晴友
池田伏尾台	中村 照美		

(戦 評)

大阪北都実年クラブ 猛打爆発で初優勝！！

大阪北都実年クラブは、1回、5番北澤の満塁本塁打で4点を挙げ好発進。2回四球から2安打とスクイズ等で2点、3回には、山路の本塁打含む長短5安打でダメ押しの6点を取り、試合を決定づけ、初優勝に輝いた。

池田伏尾台は1回裏、3番中村の2点本塁打で追撃を見せたが、準決勝の疲れもあり、反撃も相手の攻守に阻まれ、敗れたが昨年より順位を上げ準優勝となった。



公式記録員 下章 伸司
戦評記載者 下章 伸司